

第三部理工系博士人材育成分科会（第26期・第7回/WG第11回）

議事要旨

日時： 2026年6月10日（水） 11:30-12:00

場所： 日本学術会議およびウェブ会議（ハイブリッド）

出席者： 伊藤由佳理，内田誠一，奥村幸子，尾崎由紀子，加茂 倫明，岸村顕広，
北川尚美，下田吉之（オンライン），関谷 毅，関根千津，高木 周，田村圭子（オンライン），
常行真司，堀 利栄

欠席者：沖 大幹，三瓶政一，宮崎恵子

（敬称略，五十音順）

内容

（1） 記録の状況報告と今後の進め方（参考資料1、資料A～D）

- ・ 第6回分科会時点でIII, IV章の原稿作成・収集を行っていたが、その後の更新・統一的な編集は未了であることが報告された。
- ・ I, II章の原稿ドラフト第一案として、内田委員がAIに分科会資料等を読み込ませて作成した参考資料1が共有された。参考資料1では、過去の経緯、国際比較、現在の問題点、博士人材像、博士課程で育成される能力、分野の違いと共通項、今後あるべき姿等が整理されており、I, II章およびVI章の参考として活用することとなった。なお、参考資料1はAIにより全自動で作成されたものではなく、奥村委員の問題意識や整理の枠組みを指示した上で、後半のWGで議論した資料や博士課程学生へのインタビュー等も読み込ませて作成したものであり、ドラフトとしては分科会資料との齟齬が大きいことを確認した旨の説明があった。
- ・ 記録全体の編集方針として、特にIII, IV章については、各セクションを「課題と施策」という書き方に統一し、従来の意識調査や報告よりも掘り下げた点をハイライトする。シンポジウム終了後、記録の分担執筆者と短時間の打合せを行い、必要に応じて改訂・追加を依頼することとなった。
- ・ V章「分野毎の博士人材を取り巻く現状と課題・取り組み例」については、4月の第三部部会で各分野別委員会委員長に原稿を依頼しており、6月末締切で提出を求める。各分野の状況を記録として残すことが重要であるため、半ページ程度の「所感」でよく、エビデンスに基づく詳細な分析までは求めないことが改めて確認された。
- ・ 分野別原稿の作成にあたっては、過去のWG・分科会資料A、C、D等に含まれる分野ごとの状況・意見を参考にできることが説明された。提出状況については、必要に応じて委員長にリマインドを行うこととなった。
- ・ シンポジウムの内容については、シンポジウム報告として章を立てる、あるいは参

考資料として付すことを含めて整理し、必要に応じて本文にも反映する。特に VI 章のまとめには、当日の講演・パネルディスカッションの内容を取り込む方針とした。

- ・ 記録については、なるべく 7 月下旬頃に全体を取りまとめることを目標として作業を進める。

<議題（１）に関する質疑・意見交換>

- ・ 参考資料 1 の提言・施策提言部分の扱いについて質問があり、I, II 章に対応する部分はベースとして使用し、提言部分についても VI 章で一部活用する。ただし、今回は「記録」として取りまとめるため、提言そのものの形式でまとめる想定ではないことが確認された。
- ・ 博士課程で育成される能力の保証・可視化に関して、制度やフレームワークだけでなく、それを担う教員側の意識改革・変容についても記録に残すべきではないかとの意見があった。これに対し、当日のシンポジウムでも関連する論点が多く扱われる見込みであり、不足部分を記録に反映することとした。
- ・ シンポジウムで得られる助言や議論を記録へどのようなスケジュールで反映するかについて意見交換を行った。シンポジウム報告資料は定式的なものを 1 か月以内に作成する一方、記録本文への反映は、文字起こしを活用し、講演者による内容確認の期間（1 週間程度）も考慮しながら、6 月中を目途に進める方向とした。
- ・ シンポジウム内容の記録への反映については、全員で全体を確認するのではなく、執筆分担に応じて関連部分を各担当者が確認・反映する進め方が提案された。
- ・ 分野別委員会からの原稿について、各委員会の記述が一般論や他委員会の記述と重複する可能性があるとの指摘があった。これに対し、委員会ごとに分けて掲載すること、委員長らの所感として記録する趣旨であること、重複も一定程度許容することが確認された。

（２）シンポの内容確認と準備について（資料 1）

- ・ 同日開催予定の公開シンポジウムについて、Zoom ウェビナーを用いてオンライン配信を行うことが確認された。オンライン参加者は Q&A 機能で質問を記入し、司会者またはコーディネーターが適宜選んで質疑またはパネルディスカッションで取り上げる。時間が限られる場合には、講演時の質疑は最小限とし、パネルディスカッションで扱う。
- ・ 参加登録状況について、オンライン登録者は約 200 名、会場参加者は 50 名程度の見込みであり、当日参加者については受付で氏名・所属を記入してもらうこととした。参加者属性については、大学関係者が 200 名超、企業関係者が 74 名、公的研究機関が 22 名、学生が 12 名、その他である旨が共有された。最終的な属性割合は、講演者にも共有できるよう整理することとなった。（参考：最終的には、会場 38 名、オンライン 175 名、合計 2134 名、となった。）
- ・ シンポジウム報告資料は、メールベースで確認することとなった。

(3) その他

- ・ シンポジウムの内容を踏まえた記録原稿の最終確認と次期への申し送り事項を検討するため、改めて遠隔で分科会を開催する方向で日程調整を行う。

<配布資料>

資料1 第三部理工系博士人材育成分科会第7回資料

参考資料1 phd_social_recognition_report_japan_20260420

A 過去3期の提言等と追加項目データ

B 参考資料3 -20250409_博士人材育成WG

C 資料3-1 論点整理記入 20250718

D 資料2 産業界会員からの意見収集

以上